

皆さんが昨年からの本願であつた女子青年會も會社主願部を始め關係各位の熱烈な御聲援によつて本日芽出度産聲を擧げることの出来得ました事を衷心よ

年會は皆さんのはんまの純情から乙女の清らかな魂の誠から「サア皆さんお國は非常時ですお互に手を取り合つて女性の力で皇國の爲めに、さうではあり

學校出身者をもつて組織する商友會では、毎年遊覧旅行をする事になつて居る。昨年は日光方面にそれを行つたのであつた。二十余名十月三日午後三時、二十余名

本誌發行は内一家の事業にして、其の社務は子孫に傳ふる遺言を兼ねるものなり。

本誌定価 一冊五錢五分 年報費 一圓二角
發行所 内郷村報社
印刷所 平活版所

内郷村報の 六大使命

- 一、政黨政派を超越して、村力充實主義を標榜す。
- 二、村内外公私各機關の活動状況を報導し併せて其協調を計り、總勢和進努力の實現を期す。
- 三、本村社會事業の徹底を期す。

- 四、村内の善美行を表彰し、且之を獎勵す。
- 五、本村の進歩及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、餘餘力を以て、國民善導に當る。

内郷村報

天法人則
ニ從順ナ
ルベシ

東北の名跡たる、當村大字白水の、國寶阿彌陀堂は、今や修理を要する時機到來して、國庫より六千三百九十圓の補助金を下附せられ向地元にて二千圓を負擔する事となつた。故に記者が前例を破つて、本紙一二面を割きて、願成寺住職赤土興榮師及白水郵便局長にして村議たる草野三千雄氏に託して、其由來及地元の代表的念願の記述を乞ひ、江湖の識者仁人に訴へて、其修補完成を祈願する事にしたのである。

大内 民 惠

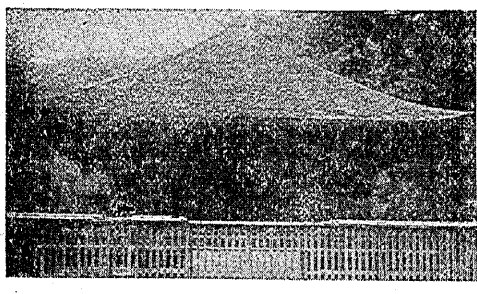
國寶阿彌陀堂の由來

赤土興榮

往昔我石城郡は双葉郡と共に、岩城五郡と稱し、今より約八百五十年前、平安朝寛治の頃より、徳川時代の初期元和の頃迄、約五百八十年の間、大體岩城一家二十余代の所領であつて、其統治をうけたものであります。而して其岩城家の始祖則道は、常陸の國守平忠衡の第一子であるが、父と不和の結果、奥州に下つて藤原清衡に寄囑し、次いで其養女徳姫（源頼義の女）を妻はされ、岩城地方を主宰させられる事となつたのであります。かくて其歿後姫は尼となり、徳尼御前と呼ばれたのであります。

我白水阿彌陀堂は、實に其徳尼御前が、亡夫則道の冥福を祈らんが爲に、今を距る七百七十五年前、二條天皇の御宇永暦元年に、建立されたもので、尼はこゝに隱棲し、故郷平泉の、泉を分字して、白水と名づけ領内であつた現在の平地方を、平と名づけたと云はれて居ります。又尼は平に常住了したのであるといふ説もあるものであります。

堂は奥州藤原三代の富強榮華を物語る、中尊寺の金色堂を摸して、其同系統の技工によつて造營せられたもので、其外觀はこゝに揚げた寫眞の通りで、七間四



(影撮年六和昭) 堂陀彌阿寶國

面の寶形造で、廻廊、屋根極、天井、内陣の柱等、すべて當時代の結構を示し、専門的説明は之を略す。周壁及長押には、極彩色の佛畫が描かれてあつた事は、其痕跡によつて當時の壯麗さを想像する事が出来るのであります。堂内中央には黒漆の須彌壇を据え、壇上には行基菩薩の御作と稱せ

らるゝ阿彌陀如來、勢至觀音の二菩薩、脇士として雲慶の作と傳へらるゝ、増長天、持國天の二尊が安置せられてあるのであります。何れも遺憾なく藤原時代の特徴を現はし、優秀なる作品として、斯道大家の推賞渴仰措く能はざる處であります。

遠く思を當時に馳するに

此堂の心として、鬱蒼たる木の間に、幾棟かの堂宇が隠見し、滑川の清流其中を貫き、大内先生が先年ありし世の高野の山を偲ぶかな

大樹の跡に腰をわらして
と一首を詠せられた、紀州高野山に擬したといふ、無数の佛塔石碑大木の伐り跡等の現存する、西方數丁の小丘たる高野山、それに我願成寺（禪尼が發願成就した爲に開基したといふ）等を包容したる、方數丁なる一廓の聖地の中、氣品高き禪尼が、朝夕侍者を引具して、しとやかに歩を堂に進めて參籠し、つゝまじやかに讀經梵唄せられ、其餘韻は全岩城領に響きわたり、善男善女の信仰禮讚は、こゝ白水に集中するに到つた事と思はるゝのであります。禪尼が水害に悩める地方民を救はんものと、小島と平の間に、架橋を念願せらるゝや、立ちどころに長蛇の如き橋が完成し、之を尼子橋と呼ぶに到りたるが如き尼の徳の如何に偉大なりしかを、物語る一端とも見るべきものであります。

大要以上の如き由來を有するを以て、岩城家歿落後徳川時代に入つても、三代將軍家光公より、代々十石

の御朱印証を下附せられ、聖田をさへ有して居つたのであります。

然るに明治維新以降は、修理保護の途は全く絶えて風雨に委する事實に三十有余年、あたら東北の靈堂も倒潰の悲運を見んとするに到つたのであります。其眞價は終に認められ、明治三十五年七月、特別保護建造物に指定され、翌三十六年六月には、國費一萬二千余圓を以て、之が修理補繕

阿彌陀堂修理豫算

支出	堂修理費	一金七千參拾九圓
	火防池設備費	一金壹千圓
計金		八千參拾九圓
收入	國庫補助	一金六千參拾九圓
	地元負擔	一金二千圓
計金		八千參拾九圓

が行はれ、往時の美觀を偲ぶ事が出来るに到つたのであります。されど爾來既に三十有年を経たるを以て、堂屋は再び破損を見るに到り、文部省は昨年技師を派遣して、具さに調査を遂げ之が修理費豫算七千三百九圓の内、六千三百九圓を補助として交附せらるゝ事になつたのであります。

次に佛像三尊は、明治三十六年四月、脇士二尊は昭和二年五月、共に國寶に指定せられたのであります。

阿彌陀堂の修補念願

草野三千雄

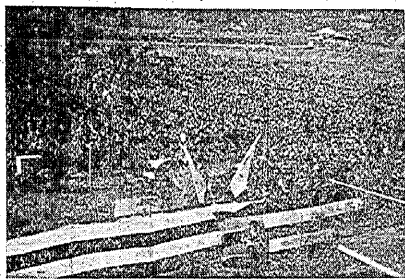
阿彌陀堂及び堂内に奉置せらるる佛像の由來現狀は赤土師の略述せられた通りであつて、平泉の金色堂と共に、奥羽の双壁たるは勿論、我白水は磐城文化發祥の地ともいふべきであります。されば毎年舊七月の祭禮開張には、近郷近在はいふ迄もなく、全国各地よりの賽者踵を接し、昭和八年には、本縣出身にして斯界の泰斗萩生天泉壽伯の手により大幅に描かれて、天下に紹介せられ、又畏くも東久邇宮殿下の臺臨參拜の光榮に浴するに到れる等、亦故ある哉と思はるゝのであります。

今や其堂宇も、修理補繕を要する時機に到達し、来る三月一日より着手起工の豫定であつて、工費七千三百十九圓の内、六千三十九圓は、國庫より補給せらるゝも、差引一千圓を、附帶事業として境内に火防用池を設備する工費一千圓、合せて二千圓は地元負擔となる勘定であります。

改めて申す迄もなく、此靈堂保存は、我内郷村は勿論、舊岩城領、延いては縣下將た全國有縁者の、當然其責を負ふべきものであつて、其二千圓を負担寄進すべき義務を有するものであります。信ぜらるゝのであります。希くは村内はいふ迄もなく、廣く一般諸賢の諒解認識の下に、賛同協力を給はり、且つは信仰向上の機縁ともせられん事を衷心

三小學校増築落成式

本紙一月號に於て、本村三小學校増築に關する、經成して、第三學期よりそれ使用する事になり、一月二十七日午前九時より金坂運動場に於て關係諸員并に、五千六百の兒童參列の下に盛大なる落成式を舉行した。先づ金澤助役開式を宣し、國歌合唱、勅語捧讀(佐藤校長)沼田村長の挨拶、生田委員の報告、來賓菅波菅原兩氏の祝辭各委員の表彰(銀盃一個)柴田校長の答辭、萬歳三唱の順序に行はれた。全兒童が國旗を高く掲げての唱和は實に壯觀であつた。かくて正午より、第三小學校に於て、



式成落築増校學小三

年末救恤

より懇願して止まない次第であります。

本村方面事業助成會に於ては舊年末に際し、理事支部長支部委員總動員にて、會費を徵集すると同時に、困窮者を調査し、世帯數九一、人員三五五に對して、九七圓五〇錢の餅米代を給與した。尙會費徵集高及其狀況等詳細は、餘白なきを以て次號に掲載する。

信用購買組合

内郷信用購買組合は、一月十三日家政女學校に總會を開き、満場一致を以て原案を承認し、役員全部重任した。其成績は餘白なきを以て次號に掲載する。

女學校展覽會

内郷家政女學校に於ては十二月十六十七兩日間、生徒製作品展覽會を開催し、六百五十点を出品、來觀者一千二百人を算し、賣上金四拾七圓に達したる由。

青年會町田支部表彰

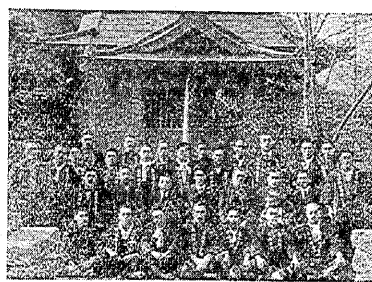
客臘十一月十九日町田坑に勃發せる瓦斯爆破の際遭難者の救助及坑口附近の雜踏警備に對する機敏且つ涙ぐましい活躍を礦業所長より認められ表彰狀に金壹封を添へて贈與された。

哲州氏講演會

一月十三日、宮崎哲野翁記念館に於て、宮崎哲州氏(滿國境視察談あり)

壽炭礦山神祭

水野一壽氏一家の經營にかゝる白水に於ける壽炭礦は、創立日尚淺きも、従業員三百三十人、役員十五人



部幹と社神山礦炭壽

を以て、一ヶ月五千噸を出炭する好況を示したるを以て、山神社を建立する事になり、舊臘十二月三十一日其落成奉齋式を盛大に舉行した。

- ◎本紙贊助金寄贈芳名
- 金貳圓 北海道 渡邊 佛藏
 - 金壹圓 北山 丸山 太郎
 - 金拾圓 湯島 波邊 隆藏
 - 金壹圓 本郷 楠邊 正隆
 - 金參圓 佐藤 綴 繁
 - 金貳圓 某 綴 氏
 - 金貳圓 城野 松三郎
 - 金貳圓 戸山 五十嵐 炭礦
 - 金壹圓 島 山内 キエ
 - 金壹圓 郷 長谷川 欽次郎
 - 金壹圓 連 草野 美智清
 - 金壹圓 大 野 美夫

日本評論社

發行所 東京三丁目
取次所 内郷村報社

教育制度改革概論

矢野 恒太 大内 民惠 著
服部 宇之吉 著
(四六版二二頁 定價五十錢 郵税六錢)

岩崎東海翁の

故淺野翁追讚の詩

磐炭參拜團記

上層勞務擔任 武藤 義造

電車に乗つて横濱までは無停車で走りに走つた。雲間漏る富士の銀嶺を右に見て大船で東海道線に駛れ、七時半横須賀についた。

二千圓は地元負擔となる
勘定であります。
改めて申す迄もなく、此
靈堂保存は、我内郷村は勿
論であります。

矢野 恒太序 大内民惠著 服部宇之吉 教育制度改革概論

(四六版二一頁 定價五十錢 郵税六錢)

行き詰れる現代の教育制度を解體し
て、學理と實際と、歴史と實驗とを
ら新に大内案九主義を提唱す。天下
知名の士の賛同攻撃に遠あらず。さ
れど未だ一人の抗議者も現はれず。

我國教育學界の泰威
前京大總長小西重直博士
書を寄せて曰く、多年ノ御體験ヲ實地
ノ御試驗ニ基ク眞學國ノ大精神ヲ拜
味仕リ不感敬ニ打テ申候云々。

發行所 日本評論社
東京橋本三丁目
取次所 内郷村報社

過、建築費、建築委員等其
他に就いて、其概要を報道
したのであつたが、愈々落
ちて来た。

哲州氏講演會 一月十日
野翁記念館に於て、宮崎哲
州氏 滿國境視察談あり

金壹圓 島 鐸木 藏
金壹圓 郷 長谷川 欽次郎
金壹圓 同 松村 智清
金壹圓 大 連 草野 美夫

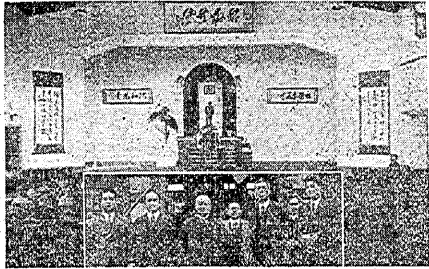
岩崎東海翁の

故淺野翁追讀の詩

東海翁とは、誰あらう中
央實業界の雄、磐城セメン
ト國光レヨン各會社長外
數會社の重役である岩崎清
七翁である。翁が舊臘來山
の砌、淺野翁頌徳記念館を
訪はれ、今更の如く故翁を
追讀し、從業員の純情を賞
嘆せられ、歸京後直ちに二

讀方 其一
幾千の赤子は斯の翁に屬す、共に
艱難を闘つて好く功を奏す、語を
寄す世途名利の士、視る他の一代
奉公の雄。

其二
礦道は縦横に幾山を穿ち、供需の
炭塊は入窠を益す、總翁の遺訓は
嚴然として在り、仰ぐ此偉功の百
歳を凌ぐ。



高城女子青年會發會式壇に立るる副所長
長所副は左氏藤齋は右翁海東は中央内村

詩を賦して贈られたるを、
淺野社長之を見事に表装し
て山元に送られたるを以て
寫真に示す通り、記念館ス
テージの左右に掲げること
とし、濱崎副所長は、新年
祝賀式に於て、之が披露説
明を行った。其詩は左の通
りである。讀方は、特に記
者が翁に乞ふて教へていた

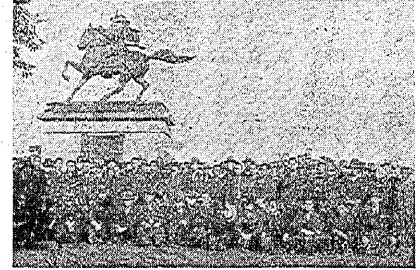
優良會員の表彰

磐炭青年會優良會員の表
彰式は、一月二十日淺野翁
頌徳記念館に於て舉行した
其表彰者は左の通である。
峯根支部 山内義則、木村
善五郎、坂本義夫
町田支部 菅野倉吉、羽田
盛次、大浦春治
高坂支部 熊谷春義、工藤
一郎、鈴木武雄、佐久間章
綴支部 伊藤誠、白川茂、
横田一郎、外に九年度精勤
者名城安恵外四十一名。

磐炭參拜團記

上層務務擔任 武藤義造

どんよりと曇つた空は段々悪くな
つて、午過ぎ頃からぼつり／＼と
降り出した雨は、何の遠慮もなく
車軸を流す様などしどし降りとなつ
た今日は、一年間祈願をこめた成
田山明治神宮へお詣りの門出の日
だ。午後四時三十分までに淺野翁
頌徳記念館前に集まつた同志八十
八名、猪狩高坂務務擔任に引率さ
れ日のつぶと暮れた五時十分
一筋の煙を後に汽車は緩驛を靜か
に送り出した。車中は蒸氣の熱で



宮城前の於ける磐炭參拜團

むし殺されそつた。車外は墨を流
した様な闇で何も眼にささるもの
はない無風流なこゝろだ。我孫
子に着いたがまだ雨はやまぬ、待
つこと一時間餘十一時成田驛につ
いたがまだやまぬ。仕方なく自動
車を飛ばして宿につく。今年の
参詣すべく雨を待つて成田山に至
ればまだ淋しく歸つて雑用をすま
し佐倉の宗吾神社へ参拜、義人の
昔を偲ぶ目頭の熱くなるのを覺え
た。途中塵あり坂あり道は暗し餘
程膽が小さくなつた様だ。護摩を

平太郎少年團

團長 志賀 英雄

皇紀二千五百六十五年
新春二月我が平太郎少年團は内郷
の一角に勇とき産聲を上げました
生れ出て僅か一月に過ぎぬが、團
員の一一致協力、伊藤吉三郎總裁
の行き届いた指導と相待つて、理
想の光を目指して歩武堂々進行
して参ります。團員は曉の空に高
く鳴り響く喇叭に飛起り、零下四
五度の極寒の中に、掛け聲勇まし
く体操し、區内を清掃し、帯を肩に
山神社の掃除に向ふ眞摯な姿には
本當に涙ぐましい感じがします。又
大内先生や井上町田務務擔任の訓
話に感じまして、一日一善を實地
に行つて参ります。

或は二週間に一度乃至二度の談話
會を開き、又は作文俳句和歌を募
集して團員の知識と品性の向上に
つとめて参ります。平太郎少年團
は貧しく財的に困窮して少しも團
員の意氣は砕かれません。平太郎
(以下四面へつゞく)

(三面よりつづく)
少年團の誇り それは團員の強固なる團結であり、精神的統一であり...

高坂女子青年會發會式

勞務課 風來坊生

皇紀二千五百九十五年の新春を壽ぎ皇室の御繁榮と國家の隆昌を祈り奉る。今や學世滔滔として非常時の聲響に滿つる時...

皇紀二千五百九十五年の新春を壽ぎ皇室の御繁榮と國家の隆昌を祈り奉る。今や學世滔滔として非常時の聲響に滿つる時...

内郷村報の

六大使命

- 一、政黨政派を超越して、村力充實主義を標榜す。
二、村内公私各機關の活動状況を報導し...

は實質的であり生命であり、我らは顧問の方々や先輩達の教に從つて協同自治の信念の下に...

「私は過去三十有餘年間教育の道に携はつて参りました。斯ふした會には幾度も遭遇致しました...

「私は過去三十有餘年間教育の道に携はつて参りました。斯ふした會には幾度も遭遇致しました...

「私は來賓ではなく皆さんの父さんのやうな氣持で此の芽出度の女青の發會式に當りまして...

「私は來賓ではなく皆さんの父さんのやうな氣持で此の芽出度の女青の發會式に當りまして...

「私は來賓ではなく皆さんの父さんのやうな氣持で此の芽出度の女青の發會式に當りまして...

を指さして人の和の大切な事を訓へた。
第三は「眞剣に働らくこと」です...

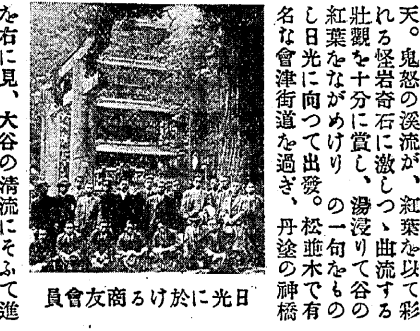
を指さして人の和の大切な事を訓へた。
第三は「眞剣に働らくこと」です...

を指さして人の和の大切な事を訓へた。
第三は「眞剣に働らくこと」です...

の會員一同は緩急に集合、三登の自動車に分乗、勇躍して出發。沿道の風光を賞し、史實を偲び...

の會員一同は緩急に集合、三登の自動車に分乗、勇躍して出發。沿道の風光を賞し、史實を偲び...

の會員一同は緩急に集合、三登の自動車に分乗、勇躍して出發。沿道の風光を賞し、史實を偲び...



員會友商るけ於に光日

本紙發行は大内一家の事業に於いて、其の社説は子孫に傳ふる遺言を兼ねるものなり。

御朱印証を下附せられ、聖田をさへ有して居つたのであります。
然るに明治維新以降は、

天法人則
從順大

此堂の心として、鬱蒼たる木の間に、幾棟かの堂宇が隠見し、滑川の清流其中を貫き、大内先生が先年

然るに明治維新以降は、